序文

Preface

本冊子は東京大学大学院数理科学研究科メンバーの 2023 年度の活動記録です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけが 2023 年 5 月 8 日に「2 類相当」から「5 類感染症」に移行し、駒場キャンパスの警戒ステージもグリーンに変わりました。これに伴い、一律の基本的感染対策から個別の判断による慎重な対策をしつつ、数理科学研究科の対面での活発な活動が再開されました。

1992 年 4 月に設置された数理科学研究科は、当時の理学部数学教室、教養学部数学教室、教養学部基礎科学科第一基礎数学教室を母体とする独立研究科です。本研究科は、大学院のみならず学部数学教育も担う部局です。具体的には、東京大学の前期課程の数学教育、理学部数学科の教育を担当するだけでなく、教養学部統合自然科学科の数理自然科学コースの数理教育を担っています。これは、数理科学研究科創立当時から現在にいたる一貫した我々の立場です。

各メンバーの報告の前にここではいくつかの特筆事項を記載します。

東京大学大学院数理科学研究科とフランス国立科学研究センター (CNRS) の間で日仏数学連携拠点 “French-Japanese Laboratory of Mathematics and its Interactions” (略称 FJ-LMI) が設立されました。拠点設立の調印式が、2023 年 10 月 3 日に本郷キャンパスの安田講堂で行われ、本学の藤井輝夫総長の列席のもと斎藤毅数理科学研究科長と Petit (ペティ) フランス国立科学研究センター会長が署名しました。CNRS の拠点 (Laboratory) は東京大学では 5 つ目、数学においては日本初のものとなります。この新しい国際拠点 FJ-LMI は日仏の数学研究交流のこれまでの活発な実績を踏まえて駒場キャンパスの数理棟に設置されたもので、さらに交流を深化させる推進力となるもので、Pevzner 教授がフランス側代表、小林俊行教授が日本側代表となってスタートしました。

さて、2012 年に本研究科において採択された「数物フロンティア・リーディング大学院」(FMSP) のプログラムに続き、2019 年度に東京大学国際卓越大学院教育プログラム (WINGS) の一環として数物フロンティア国際卓越大学院 (FMSP) が開設されました。WINGS-FMSP は学内では理学系研究科、経済学研究科、新領域創成科学研究科、工学系研究科、情報理工学系研究科、医学系研究科、総合文化研究科、Kavli IPMU の連携によるプログラムです。FMSP で導入された複数教員指導体制や「数物先端科学」、「数物連携先端科学」、「社会数理先端科学」、「社会数理実践研究」、「インターンシップ」などのコースワークは発展的に継承されています。また文部科学省の卓越大学院プログラムに採択された「変革を駆動する先端物理・数学プログラム (FoPM)」の連携機関として、5 年間の修士博士課程教育を行なっています。

数物フロンティア国際卓越大学院では、社会数理実践研究の成果報告会を、渋谷 QWS にて東大 FSI シンポジウムの一つとして開催しました。さらに、コース生のポスター発表をコモンルームで行うなど、しばらくオンライン中心であった活動の多くを、対面形式に戻すことができ、コース生同士や関係者の間の交流が活発になりました。数理科学連携基盤センターでは、産業界からの課題解決のためのスタディグループを継続する一方で、数物フロンティア国際卓越大学院の社会数理実践研究を支援しました。また、マス・フォア・インダストリ・プラットフォーム (MfIP) 会議や経団連数理活用産学連携イニシアティブへの参加を通じて、全国の数学・数理科学関係機関や学協会とともに、数理科学の社会活用支援や広報を行いました。

2023 年度における当研究科の教員の異動は以下の通りでした。4 月 1 日に葉廣和夫教授が京都大学から、着任されました。パリ・サクレ大学 (Paris-Saclay) の Guy Henniart 教授が 4 月から 7 月まで、客員教授

として数理科学研究科に滞在されました。一方、数理科学研究科からの教員の異動については、永年数理科学研究科のために貢献いただきました新井敏康教授、山本昌宏教授、松本久義准教授が定年で退職されました。また、緒方芳子教授が京都大学数理解析研究所へ異動し、鮑園園助教と中村勇哉助教はそれぞれ東北大学大学院情報科学研究科と名古屋大学大学院多元数理科学研究科の准教授として栄転されました。上坂正晃特任准教授は退職され、上田祐暉特任助教は北海道大学電子科学研究所の特任助教に異動されました。また、阿部紀行准教授、権業善範准教授、佐々田槇子准教授が10月より教授に昇任し、11月に浅井聡太氏と坪内俊太郎氏がそれぞれ日本学術振興会特別研究員と特任研究員から特任助教に着任されました。

2023年度における当研究科のメンバーの受賞等を紹介いたします。大島芳樹准教授と権業善範准教授が、令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞されました。第2回日本数学会賞小平邦彦賞を受賞された伊原康隆氏（東京大学名誉教授・業績題目：数論の研究）、儀我美一氏（東京大学名誉教授/大学院数理科学研究科特任教授・業績題目：非線形問題の数理解析）、森田茂之氏（東京大学名誉教授・業績題目：特性類の幾何学）が2023年9月に東京大学駒場キャンパスの900番教室で受賞講演を行われました。坪内俊太郎氏が、2023年度日本数学会賞建部賢弘奨励賞を受賞されました。田了准教授が、第15回函数方程式論分科会福原賞を受賞されました。佐々田槇子教授が、現象数理学三村賞奨励賞を受賞されました。また、関口英子准教授が2023年の北欧国際数学会議で招待講演を行われました。

アウトリーチ活動としては、11月25日に2023年度の公開講座「統計と数学」をハイブリッド形式で実施し、増田弘毅教授、吉田朋広教授、小池祐太准教授が、統計学における数学の役割について講演しました。対面とオンライン参加者を合わせて350名を超える盛況となりました。また、「数学の魅力」という企画を行い、主に女子中高生を対象とした参加者に対して、学内外の先生に数学の魅力を伝える講演をしていただき。また参加者同士の交流を目的として交流会を行いました。対面とオンライン参加者を合わせて150名を超える盛況となりました。

2023年度も教育・研究において大きな成果を達成することができました。研究科メンバーの尽力は言うまでもありませんが、それに加えて、この困難な時期にもかかわらず数理科学研究科の活動を日々献身的に支えてくださっている事務職員の方々のおかげです。事務職員のみなさまに深く感謝いたします。

2024年5月
東京大学大学院数理科学研究科
2023年度大学院数理科学研究科 専攻長
理学部数学科 学科長
小林 俊行